計画にフ		<b>上井の戦前史</b>			
from	to	鰻飯or鰻丼		出典	備考
1802	1802	鰻飯	"鰻鱺のし 鰻鱺を常のごとく蒲焼にし、家常飯の熟さと鰻鱺に層重に注子に貯収、蓋封置、後に食ふ" "鰻魚艦(うなぎ)めし鰻魚艦(うなぎ)を常のごとく蒲焼にし、家常飯(できあいめしり敷きと鰻(魚麗)(うな ぎ)と層重(だんだん)に注子(めしつぎ)に貯収(うつしいれ)、蓋封置(ふたし)、後に食ふ"	名飯部類	
1818	1818	鰻飯	鰻飯の店ができる	風俗粋好伝(1825) 7年前のこと	
1829	1829	鰻飯	"鰻めし菩薩の中に虚空蔵"	柳多留十	
1830	1860	鰻飯	鰻飯 京阪ではまぶし江戸ではどんぶり(鰻丼飯の略)という	守貞漫稿	
1833	1833	鰻飯	"うなぎ蒲焼は、(略)近来はいづ方も飯をそえて売り、又茶碗もり(鰻飯)などといふもあり"	世のすがた	
1836	1836	鰻飯	"呼べどこず口に土用の鰻ギ飯"	柳多留一四三	
1844	1848	鰻飯	"百出すとぼさつの中に虚空蔵" うなぎめし蒲焼の看板の絵があり	たねふくベ十二集 弘化年間	
1848	1854	鰻飯	「ふきや町がし うなぎめし」の店 鰻飯の絵もあり	新版御府内流行 名物案内双六 嘉永年 間 http://dl.ndl.go.jp/info: ndljp/pid/1310567/1	
1856	1856	鰻飯	"合方になり、正面の障子を左右へ引抜く。二重上手に前幕のお長腰縄にかかり、鰻飯の井を控え、燗徳利、 茶碗、手酌にて酒を呑み居る"	夢結蝶鳥追 河竹黙阿弥 安政3年初演	
1864	1864	鰻飯	京都の鰺飯 "其(ウナギ)飯を拵ふるを見るに飯を塗小飯鉢へ一杯入れ共上へ斗かばやき十切斗を一面二ならべ、其上より(ウナギ)焼く冷醤油を小柄?(手へんにタ)ニ而一杯程かけ出すなり。右ニ而其風味悪敷を推て可知。" P121	京都土産 石川明徳	
1865	1865	鰻飯	「LET は	俗事百工起源 (未刊随筆百種第2巻より)	
1868	1868	<b>4品金石</b>	江戸末期 青葱堂冬園 によると子供の頃(生年月日不明のため時期不明) 「市中に鰻めしという事を始めしは、四谷伝馬町三河屋業の家に勤めたる男、暇をとりて後、葺屋町の裏家にて 売り始めしは、予が幼年の頃して、次第に繁温しけり。めずらしと辞判しける故、人と共に行き見るに、井の飯 へ趣の浦焼をさし挟みたるなり。わずが価六十四孔。此見世大いに流行りける故、皆ならいてする事になりけれど、価も年を経て貴なりは	真佐喜のかつら	
1000	1000	加支机	荻原有仙子 明治前後の食通の話 P340	<b>英佐告のかり</b>	
1868	1868	鰻丼	慢丼は照振町(てりふりちょう)がはじめて(注意味不明) 態屋では入店する前に慢丼ができておりすぐ出てきた当時6銭2厘5毛 そのまえは300(注意味不明) *能の見物料はどこでもたいていー人五十銭と決まっていて、能見物にく者に手弁当という人は皆無である。 **などが料はフェースをよった。	史話明治初年 同好史談会	
1868	1912	鰻飯	普通が弁当代二十五銭、 いわんや能楽堂のごときは菓子でも鮨でも鰻飯でもお好み次第というのであるから、 一 日神妙に見物しても一人前七十五銭、少し養をいえば一円ぐらいはすぐにかかる。" P365	風俗明治東京物語 岡本綺堂	
1875	1875	井	製屋がどんぶりを500人前配達 浅草の地方官会議に あまりに多いので「縣令さんや参事さん方が七八杯づつもめしあがつたものかも知れません" P126	7月20日 東京曙	新聞集成明治編年史 第二巻より孫引き
1875	1875	鰻飯	120   鰻飯は子供の頃1朱=6銭2厘5毛だったと思うしかも丼の中に二重に入っていた	明治還魂紙 笹川臨風	笹川臨風は明治3年生まれ6歳のときと仮定
1876	1876		"鰻飯は西洋料理の媒酌となり"	学問のすすめ第十六編 福沢諭吉	
		III MA	舌の五十年 林春隆	2 leaves 2 2 cools 1 x com times clink in	
1882	1882	鰻飯	P2 (明治15年頃の大阪の話)"朱だ鰻飯のマブシをマムシと訛って、鰻丼などという洒落も知らない時代で" 親子丼の広告 神戸元町 江戸幸 うなぎと鳥料理	食道楽昭和4年8月号	
			う上并 — 人前20銭 親子上并 — 人前20銭 並并 — 人前12銭5厘 親子並并 — 人前12銭5厘 う中并 — 人前15銭	朝日新聞大阪明治17年9月6日広告	
1884		う丼?	親子中并一人前15銭	う丼が鰻丼を意味するかは不明 時事新報 東京案内 4月26日 明治西洋	
1890	1890		鰻飯が50銭	料理起源前坊洋より孫引き	
1892	1892		"緑談は上々吉。願ふ所と家内愁眉を開き、前述の鰻飯"	二人女房 尾崎紅葉	
1892	1892	腰取	"金六 第一ほかの人達は人使いが悪くって、ヤレ金六、竹葉へ行って鰻飯を誂らえて来い。" P25	松名高紅葉京橋 明治25年初演	
1898	1898	鰻丼	P25  "うなどん"を出前でとる	明治の東京生活—女性の書いた明治の 日記 小林重喜	
		MX.71	your Campites	時事新報明治21年3月3日 明治西洋料	
1901	1901	鰻飯	幕末福沢諭吉が高橋順益に鰻飯をおごった	理起源 前坊洋より孫引き	
1902	1902	鰻丼	"天麩羅は、また都人の好むで食ふ所にして、これを売る店太(はなは)だ多く、概ね安料理を兼ぬ。普通は天 麩羅御師・天井にして、天麩羅御膳は、単に飯に天麩羅を副へ、天井は井飯に天麩羅を煮て、これを交ふ。恰 も浦焼御膳と鰻井の差あるに似たり。"	東京風俗志 平出鏗二郎	
1903	1903	鰻の丼	"以前は最下等の鰻の丼位で済ませたものが俄に種々の趣向が出て"	食道楽 秋の巻 村井弦斎	
1002	1002	鰻の丼	"先日小山君の家で晩食の御馳走を戴いてその帰りに外の友人の家へ寄ったらようど僕のような大食家が こ、三人聚まって鰻の井の競食会をしていた。その時僕を大関に見立てて下宿屋へ呼びによこしたが不在で残 こ、三人聚まのでは、「大きない」といいました。 まずといっていた処で是非僕にも仲間人をしろ、ナニ晩餐を食べた後でも明日の分を終止げると思えば何でもないと非御相伴しると強しいられたので僕も鰻飯は大好物なり、平生ならば三つや四つ何でもない方だから から、日本上間様に気のまで、よりないまた。	食道楽 春の巻 村井弦斎	
1903	1903	加支以	少々胃吉と腸蔵に気の毒だったけれども苦しいのを我慢して大丼を一つ半平げた。" 大阪で開催された 第5回内国勧業博覧会案内における飲食店の説明	文足木 官ツで 刊井道県	
1903	1903	鰻飯	P25 魚常 鰻飯(まむし)20銭 天狗楼 鰻飯(まむし)25銭	博覧会土産: 大阪及び附近の名所案内	
1903	1903		P218 竹葉うなぎ「鰻井(うなぎどんぶり)」を頼むが2階では出さない 1階のみ 辯當に就きて 三界一門捜主人	最新東京繁昌記上巻 伊藤銀月	
1905	1905	48 <del>以</del>	P15 奥州線 小山の鰻井、親子井 P16 弁当代わりになる食事 天井 鰻井 親子井	月刊食道楽明治38年4月号	
1905	1905	液分	役者の食事 P48	// 17 及足木切ね20半4万万	
1905	1905	鰻丼	上級俳優 稽古弁当は書生か車夫に与え自分は 鰻井 天井 親子井、上弁、西洋料理、蕎麦 蘊蓄集 玉津環	月刊食道楽明治38年5月号	
1905	1905	鰻丼	P48 天井、鰻井、親子丼は誰でも知っている 郭の食べ物 門外子	月刊食道楽明治38年6月号	
1906	1906	鰻の丼	P49 親子や鰻のどんぶりものも台屋や普通の店から出前を取る P38	月刊食道楽明治39年5月号	
1906	1906	鰻飯	両国要場所の食事 未当がまずいので上客は洲崎屋の鰻飯やぼうずしゃもの親子丼や與兵衛の酢を注文 船料理『隅田川』川尻清潭	月刊食道楽明治39年6月号	
1906	1906	まむしめし	P75   まむしめし(鰻丼)御飯に鰻を挟む一人前の釜で炊く鰻酒   「春塘子の「土用鰻」という一文が出ている。"	月刊食道楽明治39年12月号	
1906	1906	鰻飯	"鰻丼を始めたのは日本橋葦屋町の大野屋で、天保の飢饉当時に、大井の鱧飯を天保銭一枚で売ったのが当って、外の店でもそれに做うに至った。鰻飯を重箱に盛ることにしたのは山谷の鮒儀で、それでこの店を重箱と呼ぶようになった。その重箱の鰻飯が体敷がよいので、他店でもそうするようになった。	実業之東京 明治39年8月号 明治東京逸 閏史2 森銑三より孫引き	
1910	1910	鰻飯	芝房小屋について "ただ其頃は今のやうに鰻飯が場内(こや)には這入りませんので婦人客等は大概ちらしを取寄せて喰べられた と云ふ話です"	家庭鮓のつけかた 小泉清三郎	

om t	いては		参照 https://www.amazon.co.jp/dp/B07XD81W7Q		
-+	О	鰻飯or鰻丼	内容	出典	備考
1910		鰻飯	"下女が鰻飯の丼を運び出す"	青年 森鴎外	
1910	1910	井	<sup>®</sup> 上になると、お庄はよく河岸の鰻屋へ、丼を誂えにやられた。"	足迹 徳田秋声	
1910	1910	鰻の丼	P34   鰻の丼の作り方	弦斎夫人の料理談 第三編 村井多嘉子   述	
.,		102.42.71	P17		
			客が来ると出前を頼むざるそばや天麩羅そばを必ず一人二人前頼み、客は1人前のみ食べる上客は鰻丼あ		
1911		鰻丼	と鮓天井は品がないので客には出さない	大正・雑司ケ谷 森岩雄	
1911	1911	鰻飯	"三吉は久し振りだから鰻飯を奢ると言出して"	家島崎藤村	
1912	1912	鰻飯	"主人は客と二人で鰻飯に景気をつける最中"	雑誌太陽明治45年3月号 岩村透 美術小  言 明治東京逸聞史2 森銑三より孫引き	
.,		III,C.PRA	P154	a yyayiyaaayaa waaaa yyayaa	
			大正初期		
1912		まむし	いずもや まむし一鉢15銭 まむし(鰻丼)の代表となる	続・浪華夜ばなし篠崎昌美	
1913	1913		"近所から取った、鰻の丼を二人で食べたりなどした。"	爛徳田秋声	
1916	1916	开	"鰻の丼が二百文" P23	渋江抽斎 森鴎外	
1917	1917	鰻丼	市川権十郎がうな丼五杯食べた話	東京食通番付 鶯亭金升	
			P191	美味くて徳用御飯の炊き方百種 食養研	
1918	1918	鰻飯	<b>慶飯</b> P23	究会	
1921	1921	鰻飯	市川権十郎がうな丼五杯食べた話	物価の文化史 森永卓郎 (監修)	
1922	1922	鰻飯	白木屋5階に鰻めしそばの食堂がある	欺されぬ東京案内 東京案内社編	
1922	1922	鰻丼	鰻丼(どんぶり)の元祖は葺屋町大野屋	江戸の夕栄	
			P218		
			震災直後の丸ビル花月食堂  "ここで当時の食事の値段を記しておこう。前述の牛どんが二十五銭、しばらくしてはじめた親子丼は三十銭、		
1923	1923	鰻丼	やがて材料が出廻るようになって天丼、うなぎ丼が五十銭。"	大正の銀座赤坂 多賀義勝	
1924	1924	丼	"この辺で一番上等だという小さなうなぎ屋に這入って、丼を喰いながら店の若い衆に聴いて見たら"	街頭から見た新東京の裏面 夢野久作	
			P28	## VC	
1925	1925	鰻飯	丸ビル花月食堂 親子丼50銭 天丼50銭 鰻飯80銭	横浜商工彙報第15號 横浜市商工課編	
			P124 親子丼		
			P125		
			天ぷら井  P126		
			子の葉丼(注 木の葉丼のミス?) 蒲鉾と卵焼きを使った丼		
			P127		
1926	1926	鰻丼	鰻丼  錦丼(味をつけた鶏肉と椎茸を丼飯に混ぜて蒸す)	実用季節料理 岡崎富夫	
			P317		
1926	1926	鰻飯	"ロンドンに鰻めし屋があるといふのは日本に居るときから聞いて居りました"	世界一周の絵手紙 岡本一平	
			大阪のモーリが昭和にチェーン展開 10銭のうなぎ飯とハヤシライス(浅草物語)  十銭鰻丼「モーリ」 昭和初期に大阪から来たチェーン店 そばのもりかけ7銭の時代 皿盛り さじで食べる(食い	浅草物語 加太こうじ	
1926	1926	鰻飯、鰻丼	たい放題東の味西の味)	食いたい放題東の味西の味 加太こうじ	
			P115		
			親子丼 P116		
1927	1927	鰻丼	鰻丼	最新割烹指導書 後篇 家政研究会編	
1927	1927	鰻丼	"すきやきの嘔吐から鰻丼のもの、洋食のものいろいろとある。"	楢重雑筆 小出楢重	
1927				丸の内 高浜虚子	
	1927	鰻丼	"鰻丼が出来て来た"		
1927			P144	銀座 松崎天民	
1927		鰻飯	P144 銀座松屋に鰻飯	銀座 松崎天民	
1927			P144 銭座松屋に鰻飯 *あっしは他の名題役者衆とは違って、子供の時からペエペエの下廻りで、さんざ苦しんできやしたから、自然 食べものが荒うがして、この年(ハト五歳)になっても、うなぎなんざあー人前ではどうも堪能しねえ、うなぎの蓮	銀座 松崎天民	
1927			P144 銀座松屋に鰻飯 "あっしは他の名題役者衆とは違って、子供の時からベエベエの下廻りで、さんざ苦しんできやしたから、自然 食べものが荒うがして、この年(ハー五歳)になっても、うなぎなんざあ一人前ではどうも堪能しねえ、うなぎの蒲 焼を一人半やって、それからうなぎ飯を一つはやれる。麻布六本木の「大和田」のうなぎ飯はようがすな。つまり		
1927	1927		P144 銭座松屋に鰻飯 *あっしは他の名題役者衆とは違って、子供の時からペエペエの下廻りで、さんざ苦しんできやしたから、自然 食べものが荒うがして、この年(ハト五歳)になっても、うなぎなんざあー人前ではどうも堪能しねえ、うなぎの蓮	銀座 松崎天民 味覚極楽 子母澤寛 昭和2年東京日日新 聞連載	
1927	1927	鰻飯	P144 銀座松屋に鰻飯  "あっしは他の名題役者衆とは違って、子供の時からペエペエの下廻りで、さんざ苦しんできやしたから、自然 食べものが売うがして、この年(ハ十五歳)になっても、うなぎなんざあー人前ではどうも堪能しねえ、うなぎの薄 焼を一人半やって、それからうなぎ飯を一つはやれる。麻布六本木の「大和田」のうなぎ飯はようがすな。 つまり あのうちば「たれ」がよいうなぎだけ食べてもうまいが、うなぎ飯にしてもらうとなおうまい。 四代目尾上松助 1843-1928 "俺は活動を見て五十銭のうな丼を食べたらもう死んでもいいと云った"	味覚極楽 子母澤寛 昭和2年東京日日新 聞連載	
1927 1928	1927 1927 1931	鰻飯 鰻飯	P144 厳座松屋に鰻飯 "あっしは他の名題役者衆とは違って、子供の時からベエベエの下廻りで、さんざ苦しんできやしたから、自然 食べものが荒うがして、この年(ハ十五歳)」となっても、うなぎなんざあー人前ではどうも堪能しねえ、うなぎの薄 検を一人半やって、それからうなぎ飯を一つはやれる。麻布六本木の「大和田」のうなぎ飯はようがすな。つまり あのうちはたれ」がよいうなぎだけ食べてもうまいが、うなぎ飯にしてもらうとなおうまい。 四代日 尾上松助 1843-1928 "俺は活動を見て五十銭のつな丼を食べたらもう死んでもいいと云った" "二人で鰻丼をたべにはいる"	味覚極楽 子母澤寛 昭和2年東京日日新 関連載 新版放浪記 林芙美子	
1927	1927 1927 1931	鰻飯	P144 酸摩松屋に鰻飯 "あっしは他の名題役者衆とは違って、子供の時からペエペエの下廻りで、さんざ苦しんできやしたから、自然 食べものが荒うがして、この年(ハ・日本歳)になっても、うなぎなんざあ一人前ではどうも堪能しねえ、うなぎの蒲 焼を一人半やって、それからうなぎ飯を一つはやれる。森布六本木の「大和田」のうなぎ飯はようがすな。つまり あのうちはだれよりがよいうなぎだけ食べてもうまいが、うなぎ飯にしてもらうとなおうまい。 四代目 尾上松助 1843-1928 "俺は活動を見て五十銭のうな丼を食べたらもう死んでもいいと云った" "一人て鰻丼をたべにはいる" "竹丸 あすこでうな丼の上を、いいかい上だぜ。上のうな丼を三ッ註文したんだ"	味覚極楽 子母澤寛 昭和2年東京日日新 聞連載	
1927 1928 1928	1927 1927 1931 1928	鰻飯 鰻飯 鰻丼 鰻丼	P14年 銀座松屋に鰻飯  "あっしは他の名題役者衆とは違って、子供の時からペエペエの下週りで、さんざ苦しんできやしたから、自然 食べものが荒うがして、この年(ハ・日五歳)になっても、うなぎなんざあ一人前ではどうも堪能しねえ、うなぎの薄 焼を一人半やって、それからうなぎ飯を一つはやれる。麻布六本木の「大和田」のうなぎ飯はようがすな。つまり あのうちはだった」がよいうなぎだけ食べてもうまいが、うなぎ飯にしてもらうとなおうまい。 四代日 尾上松助 1843-1928  "俺は活動を見て五十銭のうな丼を食べたらもう死んでもいいと云った" "二人で鰻丼をたべにはいる"  "竹丸 あすこでうな丼の上を、いいかい上だぜ。上のうな丼を三ッ註文したんだ" 食べ物趣味 井藤憲 P46	味覚極楽 子母澤寛 昭和2年東京日日新 関連載 新版放浪記 林芙美子 掏撲の家 長谷川伸	
1927 1928	1927 1927 1931 1928	鰻飯 鰻飯	P144 厳座松屋に鰻飯  *あしは他の名題役者衆とは違って、子供の時からペエペエの下廻りで、さんざ苦しんできやしたから、自然 食べものが荒うがして、この年(八十五歳)になっても、うなぎなんざあ一人前ではどうも堪能しねえ、うなぎの薄 焼を一人半やって、それからうなぎ飯を一つはやれる。麻布六本木の「大和田」のうなぎ飯はようがすな。つまり ぬのうちはだれりがよいうなぎだけ食べてもうまいが、うなぎ飯にしてもらうとなおうまい。* 四代日 尾上松助 1843-1928  *俺は活動を見て五十銭のうな丼を食べたらもう死んでもいいと云った*  *一人て鰻丼をたべにはいる*  *竹丸 あすこでうな丼の上を、いいかい上だぜ。上のうな丼を三ッ註文したんだ* 食べ物趣味 井藤憲 P48 上海で中国人が作った鰻丼を食べたがまずかった	味覚極楽 子母澤寛 昭和2年東京日日新 関連載 新版放浪記 林芙美子	
1927 1928 1928	1927 1927 1931 1928	鰻飯 鰻飯 鰻丼 鰻丼	P144 戴座松屋に鰻飯  **あっしは他の名題役者衆とは違って、子供の時からベエベエの下週りで、さんざ苦しんできやしたから、自然 食べものが荒うがして、この年(ハ十五歳)」になっても、うなぎなんざあー人前ではどうは暮能しねえ、うなぎの薄 様を一人半やって、それからうな苦飯を一つはやわる。様布大本木の「大利田」のうえぎ飯はようがすな。つまり あのうちは「たれ」がよいうなぎだけ食べてもうまいが、うなぎ飯にしてもらうとなおうまい。  "俺は活動を見て五十銭のうな丼を食べたももう死んでもいいと云った" "二人て鰻丼をたべにはいる"  **竹丸 あすこでうな丼の上を、いいかい上だぜ。上のうな丼を三ッ註文したんだ" 食べ物趣味 井藤憲 P46 日本で中国人が作った鰻丼を食べたがまずかった 食道楽漫談	味覚極楽 子母澤寛 昭和2年東京日日新 関連載 新版放浪記 林芙美子 掏撲の家 長谷川伸	
1927 1928 1928 1928	1927 1927 1931 1928	鰻飯 鰻斯 鰻丼 鰻丼	P144 銀座松屋に鰻飯 "あっしは他の名題役者衆とは違って、子供の時からベエベエの下週りで、さんざ苦しんできやしたから、自然 食べものが荒うがして、この年(ハー五歳)になっても、うなぎなんざあー人前ではどうも堪能しねえ、うなぎの浦 嬢を一人単やって、それからうな苦飯を一つはやわる。原布六本木の「大和田」のうざぎ飯はようがすな。つまり あのうちは「たれ」がよいうなぎだけ食べてもうまいが、うなぎ飯にしてもらうとなおうまい。" 四代目 屋上松助 1843-1928 "俺は活動を見て五十銭のうな丼を食べたらもう死んでもいいと云った" "二人て鰻丼をたべにはいる" "竹丸 あすこでうな丼の上を、いいかい上だぜ。上のうな丼を三ッ註文したんだ" 食べ物趣味 井藤憲 P46 上海で中国人が作った鰻丼を食べたがまずかった 食道楽浸談 白雲庵(書茶料理)主人 林春隆 P60	味覚極楽子母澤寛昭和2年東京日日新聞連載 新版放浪記 林芙美子 掏摸の家 長谷川伸 食道楽昭和3年9月号	
1927 1928 1928	1927 1927 1931 1928	鰻飯 鰻飯 鰻丼 鰻丼	P144 銀座松屋に鰻飯  "あっしは他の名題役者衆とは違って、子供の時からベエベエの下週りで、さんざ苦しんできやしたから、自然 食べものが荒うがして、この年(ハ十五歳)」になっても、うなぎなんざあー人前ではどうも堪能しねえ、うなぎの 境を一人半やって、それからうなぎ飯を一つはやわる。原布六本本の「大和日」のうたぎ飯はようがすな。つまり あのうちは「たれ」がよいうなぎだけ食べてもうまいが、うなぎ飯にしてもらうとなおうまい。  四代目 尾上松助 1843-1928 四代目 尾上松助 1843-1928 「一人で鰻丼をたべにはいる」 "一人で鰻丼をたべにはいる" "一人で鰻丼をたべにはいる" "竹丸 あすこでうな丼の上を、いいかい上だぜ。上のうな丼を三ッ註文したんだ" を へ物趣味 井藤憲 P46 上海で中国人が作った鰻丼を食べたがまずかった 食道楽漫談 白雲庵(普茶料理)主人 林春隆 P60 支那ではかやく飯をよく食べる 親子丼や鰻丼は長崎の五目飯から来たのだろう	味覚極楽 子母澤寛 昭和2年東京日日新 関連載 新版放浪記 林芙美子 掏撲の家 長谷川伸	
1927 1928 1928 1928	1927 1927 1931 1928	鰻飯 鰻斯 鰻丼 鰻丼	P14年 翻座松屋に鰻飯  **あっしは他の名題役者衆とは違って、子供の時からペエペエの下週りで、さんざ苦しんできやしたから、自然 食べものが荒うがして、この年(ハ・日本歳)になっても、うなぎなんざあ一人前ではどうも堪能しねえ、うなぎの薄 娘を一人半やって、それからうなぎ飯を一つはやれる。麻布六本木の「大和田」のうなぎ飯はようがすな。つまり あのうちはだれよりがよいうなぎだけ食べてもうまいが、うなぎ飯にしてもらうとなおうまい。 四代日 尾上松助 1843-1928  **俺は活動を見て五十銭のうな丼を食べたらもう死んでもいいと云った**  **二人て鰻丼をたべにはいる**  **竹丸 あすこでうな丼の上を、いいかい上だぜ。上のうな丼を三ッ註文したんだ** 食べ物趣味 井藤憲  P44  上海で中国人が作った鰻丼を食べたがまずかった 食道薬浸設 白雲房(普茶料理)主人 林春隆  P60  支那ではかやく飯をよく食べる 親子丼や鰻丼は長崎の五目飯から来たのだろう  梅を知る記 伊藤晴雨	味覚極楽子母澤寛昭和2年東京日日新聞連載 新版放浪記 林芙美子 掏摸の家 長谷川伸 食道楽昭和3年9月号	
1927 1928 1928 1928	1927 1927 1931 1928 1928	鰻飯 鰻斯 鰻丼 鰻丼	P144 銀座松屋に鰻飯  "あっしは他の名題役者衆とは違って、子供の時からベエベエの下週りで、さんざ苦しんできやしたから、自然 食べものが荒うがして、この年(ハ十五歳)」になっても、うなぎなんざあー人前ではどうも堪能しねえ、うなぎの 境を一人半やって、それからうなぎ飯を一つはやわる。原布六本本の「大和日」のうたぎ飯はようがすな。つまり あのうちは「たれ」がよいうなぎだけ食べてもうまいが、うなぎ飯にしてもらうとなおうまい。  四代目 尾上松助 1843-1928 四代目 尾上松助 1843-1928 「一人で鰻丼をたべにはいる」 "一人で鰻丼をたべにはいる" "一人で鰻丼をたべにはいる" "竹丸 あすこでうな丼の上を、いいかい上だぜ。上のうな丼を三ッ註文したんだ" を へ物趣味 井藤憲 P46 上海で中国人が作った鰻丼を食べたがまずかった 食道楽漫談 白雲庵(普茶料理)主人 林春隆 P60 支那ではかやく飯をよく食べる 親子丼や鰻丼は長崎の五目飯から来たのだろう	味覚極楽子母澤寛昭和2年東京日日新聞連載 新版放浪記 林芙美子 掏摸の家 長谷川伸 食道楽昭和3年9月号	
1927 1928 1928 1928	1927 1927 1931 1928 1928	鰻飯 鰻飯 鰻丼 鰻丼 鰻丼	P14年 報座松屋に鰻飯  **あっしは他の名題役者衆とは違って、子供の時からペエペエの下週りで、さんざ苦しんできやしたから、自然 食べものが荒うがして、この年(ハ・日本歳)になっても、うなぎなんざあ一人前ではどうも堪能しねえ、うなぎの薄 娘を一人半やって、それからうなぎ飯を一つはやれる。森布六本木の「大和田」のうなぎ飯はようがすな。つまり あのうちはだれまりがよいうなぎだけ食べてもうまいが、うなぎ飯にしてもらうとなおうまい。 四代日 尾上松助 1843-1928  *俺は活動を見て五十銭のうな丼を食べたらもう死んでもいいと云った**  *一人で鰻丼をたべにはいる**  *竹丸 あすこでうな丼の上を、いいかい上だぜ。上のうな丼を三ッ註文したんだ** 食べ物趣味 井藤憲 P44 上海で中国人が作った鰻丼を食べたがまずかった 食道楽漫談 白雲庵(曹茶料理)主人 林春隆 P60 支那ではかやく飯をよく食べる 親子丼や鰻丼は長崎の五目飯から来たのだろう 様を知る記 伊藤晴雨 P22  ***ニースを選手できなど、「おまずい。」  ***アルファットのだろう 様を知る記 伊藤晴雨 P22  ***ニースを必ず、「まれば、「まれば、「まれば、「まれば、「まれば、「まれば、「まれば、「まれば	味覚極楽子母澤寛昭和2年東京日日新 聞連載 新版放浪記 林芙美子 掏摸の家 長谷川伸 食道楽昭和3年9月号	
1927 1928 1928 1928	1927 1927 1931 1928 1928	鰻飯 鰻飯 鰻丼 鰻丼 鰻丼	P144  戴座松屋に鰻飯  **あっしは他の名題役者衆とは違って、子供の時からベエベエの下週りで、さんざ苦しんできやしたから、自然食べものが荒うがして、この年(ハ十五歳)」になっても、うなぎなんざあー人前ではどうは様能しねえ、うなぎの溝様を一人半やって、それからみな苦飯でついまやわる。旅布木本本の「大和日」のうさぎ飯にようがすな。つまりあのうちは「たれ」がよいうなぎだけ食べてもうまいが、うなぎ飯にしてもらうとなおうまい。  「他は日恵と見て五十銭のうな丼を食べたももう死んでもいいと云った。  **二人で鰻丼をたべにはいる。  **情は活動を見て五十銭のうな丼を食べたももう死んでもいいと云った。  **二人で鰻丼をたべにはいる。  ***********************************	味覚極楽子母澤寛昭和2年東京日日新聞連載 新版放浪記 林芙美子 掏摸の家 長谷川伸 食道楽昭和3年9月号	
1927 1928 1928 1928	1927 1927 1931 1928 1928	鰻飯 鰻飯 鰻丼 鰻丼 鰻丼	P14年 報座松屋に鰻飯  **あっしは他の名題役者衆とは違って、子供の時からペエペエの下週りで、さんざ苦しんできやしたから、自然 食べものが荒うがして、この年(ハ・日本歳)になっても、うなぎなんざあ一人前ではどうも堪能しねえ、うなぎの薄 娘を一人半やって、それからうなぎ飯を一つはやれる。森布六本木の「大和田」のうなぎ飯はようがすな。つまり あのうちはだれまりがよいうなぎだけ食べてもうまいが、うなぎ飯にしてもらうとなおうまい。 四代日 尾上松助 1843-1928  *俺は活動を見て五十銭のうな丼を食べたらもう死んでもいいと云った**  *一人で鰻丼をたべにはいる**  *竹丸 あすこでうな丼の上を、いいかい上だぜ。上のうな丼を三ッ註文したんだ** 食べ物趣味 井藤憲 P44 上海で中国人が作った鰻丼を食べたがまずかった 食道楽漫談 白雲庵(曹茶料理)主人 林春隆 P60 支那ではかやく飯をよく食べる 親子丼や鰻丼は長崎の五目飯から来たのだろう 様を知る記 伊藤晴雨 P22  ***ニースを選手できなど、「おまずい。」  ***アルファットのだろう 様を知る記 伊藤晴雨 P22  ***ニースを必ず、「まれば、「まれば、「まれば、「まれば、「まれば、「まれば、「まれば、「まれば	味覚極楽子母澤寛昭和2年東京日日新聞連載 新版放浪記 林芙美子 掏摸の家 長谷川伸 食道楽昭和3年9月号	
1927 1928 1928 1928 1928	1927 1927 1931 1928 1928	鰻飯 鰻丼 鰻丼 鰻丼	P144	味覚極楽子母澤寬昭和2年東京日日新聞連載 新版放浪記 林芙美子 掏摸の家 長谷川伸 食道楽昭和3年9月号 食道楽昭和3年9月号	
1927 1928 1928 1928 1928	1927 1927 1931 1928 1928	鰻飯 鰻丼 鰻丼 鰻丼	P14年 酸座松屋に鰻飯  **あつしは他の名題役者衆とは違って、子供の時からペエペエの下週りで、さんざ苦しんできやしたから、自然 食べものが荒うがして、この年(ハ・日本族)になっても、うなぎなんざあ一人前ではどうも堪能しねえ、うなぎの薄 焼を一人半やって、それからうなぎ飯を一つはやれる。麻布六本木の「大和田」のうなぎ飯はようがすな。つまり あのうちはだれ」がよいうなぎだけ食べてもうまいが、うなぎ飯にしてもらうとなおうまい。 四代日 尾上松助 1843-1928  *俺は活動を見て五十銭のうな丼を食べたらもう死んでもいいと云った*  *二人で鰻丼をたべにはいる*  *竹丸 あすこでうな丼の上を、いいかい上だぜ。上のうな丼を三ッ註文したんだ* 食べ物趣味 井藤憲 P42  空薫楽漫談 白雲庵(曹茶料理)主人 林春隆 P60  支那ではかやく飯をよく食べる 親子丼や鰻丼は長崎の五目飯から来たのだろう  様を知る記 伊藤晴雨 P22  *ニー共の天どん四十銭のうなぎ丼*  購料興味の高唱 長谷川仲 P7 駅料や食堂車はまずいと言われる 豊橋と沼津の鰻飯比較 P37 歳ブラ食道楽 吉村榮吉	味覚極楽子母澤寬昭和2年東京日日新聞連載 新版放浪記 林芙美子 掏摸の家 長谷川伸 食道楽昭和3年9月号 食道楽昭和3年9月号	
1927 1928 1928 1928 1928	1927 1927 1931 1928 1928	鰻飯 鰻丼 鰻丼 鰻丼	P144   財産松屋に鰻飯  **あしは他の名題役者衆とは違って、子供の時からペエペエの下週りで、さんざ苦しんできやしたから、自然 食べものが荒うがして、この年(ハ十五歳)」になっても、うなぎなんざあ一人前ではどうも堪能しねえ、うなぎの薄 検を一人半やって、それからうなぎ飯を一つはやれる。麻布六本木の「大和田」のうなき飯はようがすな。つまり あのうちはたれ」がよいうなぎでけ食べてもうまいが、うなぎ飯にしてもらうとなおうまい。 四代目 尾上松助 1843-1928  *情は活動を見て五十銭のうな丼食 ペたらもう死んでもいいと云った。 "二人で鱧丼をたべにはいる。" "竹丸 あすこでうな丼の上を、いいかい上だぜ。上のうな丼を三ッ註文したんた。 食べ物趣味 井藤憲  自本選美談  白素度(著料理)主人 林春隆  P60  支那ではかやく飯をよく食べる 親子丼や鱧丼は長崎の五目飯から来たのだろう  様を知る記 伊藤晴雨  P22 "三十銭の天どん四十銭のうなぎ丼。  脚類現味の高唱 長谷川仲  P7 駅井や食堂車はまずいと言われる 豊橋と沼津の鱧飯比較  P37 銀ブラ食道楽 吉村榮吉 モーリばんじゅう 競舞30銭	味覚極楽子母澤寬昭和2年東京日日新聞連載 新版放浪記 林芙美子 掏摸の家 長谷川伸 食道楽昭和3年9月号 食道楽昭和3年9月号	
1927 1928 1928 1928 1928	1927 1927 1931 1928 1928 1928	鰻飯 鰻丼 鰻丼 鰻丼 鰻丼	P144  戴座松屋に鰻飯  **あつしは他の名題役者衆とは違って、子供の時からベエベエの下週りで、さんざ苦しんできやしたから、自然食べものが荒うがして、この年(ハ十五歳)」になっても、うなぎなんざあー人前ではどうは様能しねえ、うなぎの薄様を一人半やって、それからみな苦飯でついまやわる。熊布六本木の「大利田」のうえぎ飯はようがすな。つまりあのうちば「たれ」がよいうなぎだけ食べてもうまいが、うなぎ飯にしてもらうとなおうまい。  四代目 尾上松助 1843-1928  「俺は活動を見て五十銭のうな丼を食べたもう死んでもいいと云った。  **二人で鰻丼をたべにはいる。  **竹丸 あすこでうな丼の上を、いいかい上だぜ。上のうな丼を三ッ註文したんだ。 食べ物趣味 井藤憲 P46  全へ物趣味 井藤書 P46  支那ではかやく飯をよく食べる 親子丼や鰻丼は長崎の五目飯から来たのだろう  様を知る記 伊藤晴雨 P22  **三十銭の天どん四十銭のうなぎ丼。  #詳興味の高唱 長谷川仲 P7 駅井や食堂車はまずいと言われる 豊橋と沼津の鰻飯比較  望橋と沼津の鰻飯比較  おびプラ食道楽 吉村榮吉 モーリばんじゅう 鰻丼30銭  P37  銀プラ食道楽 吉村榮吉 モーリばんじゅう	味覚極楽子母澤寛昭和2年東京日日新聞連載 新版放浪記 林芙美子 掏摸の家 長谷川伸 食道楽昭和3年9月号 食道楽昭和3年10月号	
1927 1928 1928 1928 1928	1927 1927 1931 1928 1928 1928	鰻飯 鰻丼 鰻丼 鰻丼	P144   財産松屋に鰻飯  **あしは他の名題役者衆とは違って、子供の時からペエペエの下週りで、さんざ苦しんできやしたから、自然 食べものが荒うがして、この年(ハ十五歳)」になっても、うなぎなんざあ一人前ではどうも堪能しねえ、うなぎの薄 検を一人半やって、それからうなぎ飯を一つはやれる。麻布六本木の「大和田」のうなき飯はようがすな。つまり あのうちはたれ」がよいうなぎでけ食べてもうまいが、うなぎ飯にしてもらうとなおうまい。 四代目 尾上松助 1843-1928  *情は活動を見て五十銭のうな丼食 ペたらもう死んでもいいと云った。 "二人で鱧丼をたべにはいる。" "竹丸 あすこでうな丼の上を、いいかい上だぜ。上のうな丼を三ッ註文したんた。 食べ物趣味 井藤憲  自本選美談  白素度(著料理)主人 林春隆  P60  支那ではかやく飯をよく食べる 親子丼や鱧丼は長崎の五目飯から来たのだろう  様を知る記 伊藤晴雨  P22 "三十銭の天どん四十銭のうなぎ丼。  脚類現味の高唱 長谷川仲  P7 駅井や食堂車はまずいと言われる 豊橋と沼津の鱧飯比較  P37 銀ブラ食道楽 吉村榮吉 モーリばんじゅう 競舞30銭	味覚極楽子母澤寬昭和2年東京日日新聞連載 新版放浪記 林芙美子 掏摸の家 長谷川伸 食道楽昭和3年9月号 食道楽昭和3年9月号	
1927 1928 1928 1928 1928	1927 1927 1931 1928 1928 1928	鰻飯 鰻丼 鰻丼 鰻丼 鰻丼	P144 戴座松屋に鰻飯  **あつしは他の名題役者衆とは違って、子供の時からベエベエの下週りで、さんざ苦しんできやしたから、自然 食べものが荒うがして、この年(ハ十五歳)」になっても、うなぎなんざあー人前ではどうは暮能しねえ、うなぎの薄 様を一人半やって、それからうなぎ飯を一つはやわる、梶木六本木の「大和日」のうさぎ飯はようがすな。つまり あのうちは「たれ」がよいうなぎだけ食べてもうまいが、うなぎ飯にしてもらうとなおうまい。  "権は活動を見て事十銭のうな丼を食べたらもう死んでもいいと云った" "二人で鰻丼をたべにはいる" "竹丸 あすこでうな丼の上を、いいかい上だぜ。上のうな丼を三ッ註文したんだ" 食べ物趣味 井藤憲 P46 上海で中国人が作った鰻丼を食べたがまずかった 食道楽漫談 白雲廖(普茶料理)主人 林春隆 P80 支那ではかやく飯をよく食べる 親子丼や鰻丼は長崎の五目飯から来たのだろう 様を知る記 伊藤晴雨 P22 "三十銭の天どん四十銭のうなぎ丼" 驛群興味の高唱 長谷川伸 P77 駅子や食堂車はまずいと言われる 豊機と沼津の鰻飯比較 P37 銀ブラ食道楽 吉村学吉	味覚極楽子母澤寛昭和2年東京日日新聞連載 新版放浪記 林芙美子 掏摸の家 長谷川伸 食道楽昭和3年9月号 食道楽昭和3年10月号	
1927 1928 1928 1928 1928	1927 1927 1931 1928 1928 1928	鰻飯 鰻丼 鰻丼 鰻丼 鰻丼	P144   財産松屋に鰻飯  **あしは他の名題役者衆とは違って、子供の時からペエペエの下週りで、さんざ苦しんできやしたから、自然 食べものが荒うがして、この年(ハ十五歳)」になっても、うなぎなんざあ一人前ではどうも堪能しねえ、うなぎの 食べものが売うがして、この年(ハ十五歳)」になっても、うなぎなんざあー人前ではどうも堪能しねえ、うなぎの薄 技を・人半やって、それからうなぎ飯を一つはやれる。麻布六本木の「大和田」のうなぎ飯はようがすな。つまり あのうちは「たれ」がよいうなぎだけ食べてもうまいが、うなぎ飯にしてもらうとなおうまい。 四代目 尾上松助 1843-1928  *情は活動を見て五十銭のつな丼食食べたらもう死んでもいいと云った。 "二人で鰻丼をたべにはいる。" "竹丸 あすこでうな丼の上を、いいかい上だぜ。上のうな丼を三ッ註文したんだ。 食金物趣味 井藤憲 P46 上海で中国人が作った鰻丼を食べたがまずかった 食道楽漫談 台裏庵(曹茶料理)主人 林春隆 P60 支那ではかやく飯をよく食べる 親子丼や鰻丼は長崎の五目飯から来たのだろう 樽を知る記 伊藤晴雨 P22 "二十銭の天どん四十銭のうなぎ丼"  脚類興味の高唱 長谷川伸 P7 駅井の食堂車はまずいと言われる 豊橋と沼津の鰻飯比較 P37 銀ブラ食道楽 吉村榮吉 取引の銭、50銭、1円 P10 銀ブラ食道楽 吉村榮吉 歌舞大の銭、50銭、1円 P10	味覚極楽子母澤寛昭和2年東京日日新聞連載 新版放浪記 林芙美子 掏摸の家 長谷川伸 食道楽昭和3年9月号 食道楽昭和3年10月号	
1927 1928 1928 1928 1928	1927 1927 1931 1928 1928 1928	鰻飯 鰻丼 鰻丼 鰻丼 鰻丼	P144 競座松屋に鰻飯 "あっしは他の名題役者衆とは違って、子供の時からベエベエの下週りで、さんざ苦しんできやしたから、自然食べものが売うがして、この年(ハ十五歳)」になっても、うなぎなんざあー人前ではどうも堪能しねえ、うなぎの薄様を一人半やりて、それからみなぎ飯を一つはやれる。麻布六本木の「大和日」のうなぎ飯はようがすな。つまりあのうちは「たれ」がよいうなぎだけ食べてもうまいが、うなぎ飯にしてもらうとなおうまい。"四代目尾上松助 1843-1928 四代目尾上松助 1843-1928 ではいる。" "九人で鱧井をたべにはいる" "竹丸 あすこでうな井の上を、いいかい上だぜ。上のうな井を三ッ註文したんだ" 食え物趣味 井藤書 P46 上海で中国人が作った鰻井を食べたがまずかった食道業房(普茶料理)主人 林春隆 P60 文部ではかやく飯をよく食べる 親子井や鰻井は長崎の五目飯から来たのだろう 神を知る記 伊藤晴雨 P22 "三十銭の天どん四十銭のうなぎ井" 驒井興味の高唱 長谷川伸 P7 駅弁や食堂車はまずいと言われる豊橋と沿岸の鰻飯比較 P37 銀ブラ食道楽 吉村榮吉モーリばんじゆう 競井30銭、50銭、1円 P10 10 12 13 14 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15	味覚極楽子母澤寛昭和2年東京日日新聞連載 新版放浪記 林芙美子 掏摸の家 長谷川伸 食道楽昭和3年9月号 食道楽昭和3年10月号	
1927 1928 1928 1928 1928	1927 1927 1931 1928 1928 1928	鰻飯 鰻丼 鰻丼 鰻丼 鰻丼	P144 戴座松屋に鰻飯 "あつしは他の名題役者衆とは違って、子供の時からベエベエの下週りで、さんざ苦しんできやしたから、自然 食べものが荒うがして、この年(ハ十五歳)になっても、うなぎなんざあー人前ではどうも堪能しねえ、うなぎの薄 様を一人単やつて、それからみなぎ飯をついさやわる。原布六本木の「大利田」のうさ節はようがすな。つまり あのうちは「たれ」がよいうなぎだけ食べてもうまいが、うなぎ飯にしてもらうとなおうまい。" 「他は活動を見て五十銭のうな丼を食べたもう死んでもいいと云った" "二人で鰻丼をたべにはいる" "竹丸 あすこでうな丼の上を、いいかい上だぜ。上のうな丼を三ッ註文したんだ" 食べ物趣味 井藤志 P46 上海で中国人が作った鰻丼を食べたがまずかった 食道薬漫談 白雲庵(書茶料理)主人 林春隆 P60 支那ではかやく飯をよく食べる 親子丼や鰻丼は長崎の五目飯から来たのだろう 樽を知る記 伊藤晴雨 P22 "三十銭の天どん四十銭のうなぎ丼" 舞翔興味の高唱 長谷川仲 P7 駅井や食堂車はまずいと言われる 豊橋と沼津の鰻飯比較 慰プラ食道楽 吉村榮吉 モーリばんじゅう 健丼30銭、1円 P10 飼フラ食道楽 吉村榮吉 歌舞伎座付近 林田うなぎ食堂(鰻丼50銭、親子丼30銭、花巻20銭)出(大阪ずし50銭 むしずし50銭 さばずし50銭) り料3	味覚極楽子母澤寛昭和2年東京日日新聞連載 新版放浪記 林芙美子 掏摸の家 長谷川伸 食道楽昭和3年9月号 食道楽昭和3年10月号	
1927 1928 1928 1928 1928	1927 1927 1931 1928 1928 1928	鰻飯 鰻丼 鰻丼 鰻丼 鰻丼	P144	味覚極楽子母澤寛昭和2年東京日日新聞連載 新版放浪記 林芙美子 掏摸の家 長谷川伸 食道楽昭和3年9月号 食道楽昭和3年10月号	
1927 1928 1928 1928 1928	1927 1927 1931 1928 1928 1928	鰻飯 鰻丼 鰻丼 鰻丼 鰻丼	P144	味覚極楽子母澤寛昭和2年東京日日新聞連載 新版放浪記 林芙美子 掏摸の家 長谷川伸 食道楽昭和3年9月号 食道楽昭和3年10月号	
1927 1928 1928 1928 1928	1927 1927 1931 1928 1928 1928	鰻飯 鰻丼 鰻丼 鰻丼 鰻丼	P144 競座松屋に鰻飯 "あつしは他の名題役者衆とは違って、子供の時からベエベエの下週りで、さんざ苦しんできやしたから、自然 食べものが売うがして、この年(ハ十五歳)」になっても、うなぎなんざあ一人前ではどうも堪能しねえ、うなぎの 食べものが売うがして、この年(ハ十五歳)」になっても、うなぎなんざあー人前ではどうも堪能しねえ、うなぎの 歳を一人単やのて、それからうな苦飯を一つはやれる。麻布六本木の「大和田」のうな苦飯はようがすな。つまり あのうちは「たれ」がよいうなぎだけ食べてもうまいが、うな苦飯にしてもらうとなおうまい。 四代目尾上松助 1843-1928 で構は活動を見て五十銭のつな丼を食べたらもう死んでもいいと云った。 "二人で鱧丼をたべにはいる" "竹丸 あすこでうな丼の上を、いいかい上だぜ。上のうな丼を三ッ註文したんだ" 食べ物趣味 井藤憲 P46 上海で中国人が作った鰻丼を食べたがまずかった 食道案漫談 白雲庵(普茶料理)主人 林春隆 P60 交前ではかやく飯をよく食べる 親子丼や鰻丼は長崎の五目飯から来たのだろう 様を知る記 伊藤晴雨 P22 "二十銭の天どん四十銭のうなぎ丼" 膠群興味の高唱 長谷川仲 P7 銀ブラ食道楽 吉村榮吉 モーリばんじゅう 競丼30銭、50銭、1円 P10 銀ブラ食道楽 吉村榮吉 歌舞伎座様に近 林田うなぎ食堂(鰻丼50銭、親子丼30銭、花巻20銭)出(大阪ずし50銭 むしずし50銭 さばずし50銭) 別類伎座様屋口が 林田うなぎ食堂(鰻丼50銭、親子丼30銭、花巻20銭)出(大阪ずし50銭 むしずし50銭 さばず し50銭) 別類伎座乗屋口 中新(洋食)玉子丼30銭 牛丼40銭 牛鍋 開化丼 玉子焼15銭 おでん P14 丸山(焼き鳥丼、きじ焼き丼、おぼろ丼)	味覚極楽子母澤寛昭和2年東京日日新聞連載 新版放浪記 林芙美子 掏摸の家 長谷川伸 食道楽昭和3年9月号 食道楽昭和3年10月号	
1927 1928 1928 1928 1928	1927 1927 1931 1928 1928 1928	鰻飯 鰻丼 鰻丼 鰻丼 鰻丼	P144	味覚極楽子母澤寛昭和2年東京日日新聞連載 新版放浪記 林芙美子 掏摸の家 長谷川伸 食道楽昭和3年9月号 食道楽昭和3年10月号	
1927 1928 1928 1928 1928	1927 1927 1931 1928 1928 1928	鰻飯 鰻丼 鰻丼 鰻丼 鰻丼	P144	味覚極楽子母澤寛昭和2年東京日日新聞連載 新版放浪記 林芙美子 掏摸の家 長谷川伸 食道楽昭和3年9月号 食道楽昭和3年10月号	

詳細につ	いては4	上井の戦前す	参照 https://www.amazon.co.jp/dp/B07XD81W7Q		
	to	鰻飯or鰻丼		出典	備考
			中京食堂行脚 近藤蕉雨		
			名古屋の松坂屋食堂 P51		
			鰻井 親子井 天井 天ぶら 寿司 和洋一品料理等東京とかわりなし。 十一屋食堂(松坂屋に次ぐ百貨店) 内容は松坂屋と大同小異		
			P54		
			やっこ食堂 やっこ井=鰻井30銭 上鰻井50銭		
			和洋食25銭以上		
			橘惣食堂  天ぶら70銭 鰻丼40銭 子供鰻丼20銭 鯉汁20銭 牡蠣酢の物20銭 親子丼50銭 サザエつぼ焼き25銭 ロ		
			取30銭 定食60銭 握り鮨35銭 ちらし寿司35銭 P56		
			榮屋食堂		
			鰻丼 かしわすき焼き 中食 ランチ ミール 鮓 汁粉 雑煮 ぜんざい コーヒー 紅茶   東鮓食堂		
1929	1929	鰻丼	握り鮓40銭 小料理15, 25, 50銭 洋食普通の値段 鰻丼 親子丼	食道楽昭和4年3月号	
			<b>座談会</b> P64		
1929	1929	经业	北海道の食堂車 親子丼、玉子丼、天丼がうまい 軽井沢駅では鰻丼をだす	食道楽昭和4年4月号	
1727	1727	※交牙下	近頃繁昌浅草記 添田唖蝉坊	及但未咱们生生生力与	
1929	1929	名品会に	P15 関西流の鰻飯「毛利」35銭	食道楽昭和4年5月号	
1929	1929	制支助X	大阪食堂行進曲 丘町草之助	及追朱昭和4年5月亏	
			P96 高島屋食堂		
,		78 /ha 4=	7,8階、地下に食堂	A W. W. T. T	
1929	1929	鰻御飯	鰻御飯60銭、親子丼40銭 P100-101	食道楽昭和4年5月号	
			文壇食品見立		
1929	1929	鰻丼	文士を食べ物、飲み物に見立てる うな丼 天丼 中華丼 木の葉丼 穴子丼 牛丼 カツ丼	食道楽昭和四年十月号	
1929	1929		"ゲーム取りの女なんかに、鰻丼をおごつたりするんですよ。"	取引にあらず岸田國士	
			P59		
			鰻井   P65		
			穴子井 P66		
			親子丼		
1930	1930	鰻丼	P68  天井	寿司と変り御飯の作り方 主婦之友社編   輯局編	
			P80		
			"散し鮨を悪くいうものは、『あれは館屋の廃物利用だ』とか『芥溜をかき廻わして食うような気がする』とか『井飯   なんて大体一杯飯で下品な物さ』などとけなす。"		
1930	1930	鰻飯	"丼飯だって今は鰻飯、天丼などと同様客に出して恥かしくない時代である。"	すし通 永瀬牙之輔	
1930	1930	まむし丼	P200   毛利パンで肉まんやスシマン 大阪式まむし丼(どんぶり)	東京名物食べある記 時事新報家庭部編	
		鰻まぶし、	出雲屋の鰻まぶし(かんばんはまむし 大阪の人間はまむしと発音) 開店時は10銭 今は30銭 30銭になった		
1930 1930	1930 1930		がふつうの鰻丼は60-70銭取るので安い "支那蕎麦も売れば、てんどん、親子、鰻丼の飯をも売り、汁粉雑煮の餅まで商うようになった"	道頓堀通 日比繁治郎 蕎麦通 村瀬忠太郎	
1930	1930	設升	又が需要も元利は、これとれ、税子、股子の数とも元り、川初程限の許まで向りよりになりに P282	耐友題 門 棋心 人即	
1930	1930	鰻丼	小松食堂の鰻丼は安い	銀座細見 安藤更生	
			京極漫歩 小倉浩一郎 P55		
1930	1930	鰻まむし	かねよ 鰻まむし きんし丼(まむしの上に卵焼きがかぶせてある)が三十五銭	食道楽昭和五年四月	
			銀座口腹漫談 安東徳器 P53		
1930	1930	鰻丼	毛利の鰻丼	食道楽昭和五年四月	
			うまひ物の思ひ出 南部修太郎  P9		
1930	1930	鰻丼	東北線の駅弁の鰻どんぶりはひどかった 東京料理論(一) 野間五造	食道楽昭和五年四月	
			P5		
1930	1930	鰻丼	"食堂という安値専門の鰻丼が全盛で、大概の店では、養魚池の製造品や場違物ばかりを用いて"	食道楽昭和五年六月	
			淺草に於ける江戸前うなぎ料理 石角春之助  P33		
1930	1930	经业	浅草のやっこは江戸時代からの老舗 "更らに門闕裏の溝際で、鰻丼を二百五十文から賣り出したと言ふ"	食道楽昭和五年十二月	
1730	1730	4支7十	更らに「開奏の海际で、腰井を二日五十大から買り出したC言ふ  座談会 鰻と鮎を語る	及足不咱们业牛!一月	
			P74 P72		
1930	1930	鰻飯	"伊坂 ロンドンで鰻飯を食つたことがあるがちよいと旨かつたね。"	食道楽昭和五年七月	
[	]		粋談なはのれん 重松久		
			P111		
1930	1930	腰丼	"モーリの鰻丼は、喰つて三日ゲップが出らあ" 力士と食べ物 伊藤忍々洞	食道楽昭和五年七月	
			P24		
			現在の出羽ヶ岳は何しろあの圖體ですから、中々の大食で、食事の際に酒代りにサイダーを飲むのを見ましたが、三四本はたちまちに平げてしまゐます、鰻井のハツや九ツは平氣であるそうです。 先程引退した鞍ヶ岳		
1931	1931	<del>鳗</del> 丼	の東關なども取り盛りに、鰻丼をハツ平げたそうです。力士や、力士年寄は大抵、鰻丼は仲入丼(なかいりどん)を喰べますが、先づ之れの二三杯は大食漢ならぬ普通力士でも平げるものと思つてよいのです。"	食道楽昭和六年二月	
.,,,	.,,,1	mX/1	丸の内の食堂 中野末男		
			P44 "鐵道省の食堂と言ふのが、永楽町停留所の西側にある。普通畫飯十四銭、特別三品つき二十四銭、うな丼も		
1931	1931	鰻丼	二十四銭。"	食道楽昭和六年三月	
			甘いが併行舌行脚 近藤飴シ坊 P10		
1021	1021	40 11	茨城編	A************	
1931	1931	授并	空間で鰻丼を注文 驛辨とキノコを語る 近藤飴ン坊	食道楽昭和六年十月	
			P7		
			"大宮驛の鰻丼はヒドイ" "小山の鰻丼は、名物にかぞへられた"		
			八面玲瓏毒舌漫談 籾山髻華		
			P98		
1931	1931	鰻丼	P99 力士有明が鰻丼7杯食べた話	食道楽昭和六年十一月	
1,51	.,,,,	moc / f	驛辨とキノコを語る 近藤飴ン坊	AND THE PROPERTY OF THE PROPER	
1931	1931	<del>鱼</del> 鼻 旬万	P8 "仙台驛の鰻飯は丼ではなく折詰です"	食道楽昭和六年十一月	
.//1	./51	mQ PAA	ten minut to makempanya (1 School Salahi Sal	KEANINITI D	1

詳細につ	詳細については牛丼の戦前史参照 https://www.amazon.co.jp/dp/B07XD81W7Q					
from	to	鰻飯or鰻丼	内容	出典	備考	
1932	1932	鰻丼	大野屋 鰻丼のみ 葺屋町河岸 明治30年頃で12銭	幕末明治 女百話 篠田鉱造		
1932	1932		秋雨の窓から 坂慶山 P38 態井などの蝋細工の見本の流行について P39 通人がデパートで鰻丼を食べていたのを見て失望する話	食道楽昭和七年十一月		
1932	1932		7 PRO ***  **  **  **  **  **  **  **  **  *	<b>含道楽昭和七年五月</b>		
1932	1932	m271	度該金 巷談冬の夜噺 P81 力士有明が歸井15杯食べた話	食道楽昭和七年一月		
1933	1933		P249 神楽坂こめや 蒲焼料理 うな丼30銭	大東京うまいもの食べある記 白木正光		
1934	1934	鰻丼	"燕車に稽古してもらつて噺が済むと、鰻丼が一つお酒が一合"	燕枝芸談 談洲楼燕枝(二代)		
1936	1936		資本いらずの食物商賣 屋臺店に成功した苦心 P313 *競井なども出します。	主婦の友昭和11年10月号		
1937	1937	鰻丼	"鰻井なども上等なもてなしの一つで、半分残すのが礼儀のような時代であったところを思うと、養殖が盛になったために吾々はありがたい世に生きているわけである。"	三筋町界隈 斎藤茂吉		
1939	1939	鰻丼	"うなぎ丼を馳走になる"	古川ロッパ昭和日記 昭和十四年 古川緑波		
1946	1946	鰻飯	"鰻飯の流行は震災直後の丸の内に鰻食堂が櫛比したのに始まる。"	明治還魂紙 笹川臨風	笹川臨風は明治3年生まれ	